



じつきょう

商業教育資料 No. 69 通巻357号

Something Creative な発想力と実効力を目指して

群馬県立高崎商業高等学校教諭
NPO法人 高商Planning 理事長

瀧澤 光生

1. はじめに

本校のコンピュータ部では、情報処理技術者試験、全商各種検定、プログラム競技会、IT 選手権といった座学終了後、3年間の部活動の総決算として、高崎市の活性化を目的とした取り組みを行ってきた。

これまでの過去8年間、商業・観光・伝統・文化・公共施設・特産品の有効活用という側面から調査・研究を続け、その成果を市役所や関係団体に提案し、生徒研究発表会などで発表してきた。そして、平成16年度には、NPO法人を設立するに至り、その取り組みの幅を広げている。

そこで、コンピュータ部によるNPO法人設立までの経緯と、その活動内容について紹介したい。

2. 経緯

コンピュータ部での一連の活動により、平成13年度から、高崎市特産品開発委員会に学識経験者として招聘されることとなった。そして、これまでの研究を土台に、部活動の一環として実際の特産品たる“物”を提示すべく努力してきた。

具体的には、平成14年度は、群馬県の小麦生産が日本有数である点から、うどんに着目し、市内そ

ば店との提携のなかから「うだんご」というネーミングによる、まったく新しい調理法のうどんを開発した。県産業教育フェアや高崎市内の定期市である「人情市」などにおいて実演販売を実施し好評を得てきた。現在、地元JAや製麺会社との商品の完成を目指した開発を進行中である。さらに「うだんご」の商標権取得についても申請書類を作成済みである。

一方、酪農県としても全国に名高いことから、イメージ販売戦略として独自の物語を作成し、フォンデュをメインにした「フォンデュシティ TAKASAKI」と銘打った販売活動を展開した。

さらに、文化的側面から、高崎市に縁のある外国人であるブルーノ・タウトやアントニン・レーモンドをモチーフとした、商品開発と街づくりを一体化させたプレゼンテーションを作成した。

平成15年度は、キャラクターによる特産品開発にスポットを当て、高崎＝「だるま」と連想する点に着目し、だるまを現代風にアレンジした「Hug Heart だるま」略して「Hug だるま」というキャラクターを考案し、ケーキや装飾品、家庭用品まで様々な商品を考案した。このキャラクターは、高崎市特産品開発委員会の上部団体である高崎市物産振

目	次
Something Creative な発想力と実効力を目指して …………… 1	諫早商業高校商業クラブの3年間の取り組み…………… 16
キャリア教育・起業家教育の視点に立った体験的なビジネス教育の実践を目指して … 6	全商商業検定1級3種目以上全員合格への取り組み…………… 20
これからの起業家活動教育 …………… 12	特色ある学習内容を目指して…………… 24

興協会が、商標権取得と使用権管理を行う構想も持ち上がっている。

これらの活動を通じて、高崎市役所商業観光課と密な連携をとることができ、その結果、平成15年9月に、次年度からの高崎市空き店舗対策の一部であるコミュニティ施設の運営を依頼された。店舗賃借料3年間の助成という内容であった。当初は高崎市市長が認可した団体ということでの開店を目指していたが、法人化された団体という要件が平成16年度より加わったため、まず、NPO法人を設立するに至った。

ここで、NPO法人とは何かと設立過程を簡単に説明する。

NPO法人とは、誰でも設立可能な法人格を持つ組織である。資本金・申請手数料・登記手数料も不要である。ただし、活動分野が17分野に限定されることや、不特定多数かつ多数のものの利益増進に寄与することが求められる。しかしながら、非営利であるからといって、経済的な利益を生む活動は制限されてはいない。なぜなら、経済的自立のための費用を生み出す必要があるからである。当然、これらの活動を実施した場合は、税務署に申告し納税する必要がある。

次にNPO法人設立までの流れを簡単に紹介する。

- (1) 設立発起人会と設立総会実施
- (2) 定款等の申請書類の作成
 - ①設立認証申請書 ②定款 ③役員名簿
 - ④就任承諾書および宣誓書
 - ⑤各役員の住民票 ⑥社員の住所録
 - ⑦確認書 ⑧設立趣旨書
 - ⑨設立意思決定議事録
 - ⑩事業計画書2年分 ⑪収支計画書2年分
- (3) 設立認証申請を所轄庁である群馬県に提出
- (4) 縦覧期間を待つ（認証申請受理から2か月）
- (5) 認証の決定（群馬県知事）
- (6) 設立登記申請を前橋地方法務局にて実施
- (7) 登記完了にてNPO法人設立完了
- (8) 設立後の各種届出（税務署、都道府県事務所、市町村役場、社会保険事務所、労働基準監督署）

3. 開店までの歩み

このように、コミュニティ施設運営を依頼されたわけであるが、まず、これまでの取り組みを生かし

て、どのような活動ができるかを考えなければならなかった。全国の商業高等学校の活動にもコミュニティ施設運営を実践している例があったが、我々の実践してきた活動とは符合しない。また、既に店舗運営にて物販を実践している学校は全国的に多数あったが、独自商品を開発し販売してもアイテム数の面で現実的でない。そこで、商業教育の独自性とは何かという観点から、新たなる可能性を探った。

郊外大型店舗が躍進し、中心市街地の衰退が叫ばれて久しい。しかし、現在これといった中心市街地活性化の決定打はない。一方、地元企業主による町おこしや、それに参加する形での高校生や大学生ボランティア、NPOによる地域再活性化への取り組みは全国的な広がりを見せ、その効果は局地的、散発的に広がってきている。こうした流れを勘案して、何か高校生を主体とした活動で、地域のためになり、かつ、継続可能な独自のコミュニティ施設運営ができないかを考えた。そこで、地域再活性化につながる「企画型」の店舗を想定した。これまで縁の無かった、地元住民と地元企業を結びつける活動を行うことにより、人と人との絆ができあがれば、その輪を広げることで高崎市の活性化のうねりを作り出すことができる。さらにその輪が輪を呼ぶことにより、これまで縁の無かった人と企業との輪が広がる。また、柔軟で前向きな発想力と意欲的な実践力により実際に“効果”のある活動を目指すという意味を込め、活動の主柱となる合言葉を「Something Creativeな発想力と実効力」とした。

また、高崎市の再活性化と商業教育の新しい形を提案するという意味から、店舗名を「Colors」と名づけた。

**Create Opportunity & Link Organizations.
the Revitalize Shop.**

4. 活動実績について

これまでの活動を時系列に列記する。

5月19日	NPO 認証完了
25日	NPO 登記完了
6月1日	改装契約と賃貸借契約を締結
4日	ラジオ高崎 駅前ブースに生出演
6日	オープニングセレモニー
11日	高崎市特産品開発委員会会場
20日	Hug だるまクッキー教室
27日	無料パソコン教室

- 7月 2日 ラジオ高崎に出演
 11日 和菓子教室
 18日 ビーズ作り教室
 20日 FM 群馬に出演
 25日 無料パソコン教室
 ♪ ビンゴゲーム (人情市)
- 8月 1日 おいしいコーヒーの淹れ方教室
 4日 王様のシュークリームのはやり方教室
 7日 手作りケーナ教室 第1回
 14日 手作りケーナ教室 第2回
 21日 手作りケーナ教室 第3回
 ♪ 無料パソコン教室
 ♪ 万灯会に参加協力
 22日 夏休みキャンドル教室
 ♪ 無料パソコン教室
 ♪ チーズケーキ作り教室
 ♪ ビンゴゲーム (人情市)
- 23～27日 南公民館主催
 無料パソコン教室 In 南小学校
- 28日 手作りケーナ教室 第4回
 29日 手作りビーズ教室
- 9月 12日 「高崎壁画」NHK 放映
 19日 Hug だるまクッション作成教室
 20日 老人ホームへの慰問
 26日 無料パソコン教室
 ♪ 人情市へ出店
- 10月 17日 くじらの森フェスティバル参加協力
 28日 無料パソコン教室
 29日 ラジオ高崎に出演
 30日 コッパデッレアウトストリケ参加
 31日 人情市へ出店
- 11月 2日 おいしいコーヒーの淹れ方教室
 5・6日 群馬県産業教育フェア参加
 展示発表
 全国商業高等学校独自開発商品
 NPO 法人 高商 Planning Colors の活動
- 6日 群馬県産業教育フェア参加
 著名人による特別講演会 企画運営
 宮本正明氏
 ♪ 作品研究発表
 Something Creative な発想力と実効
 力を目指して
- 29日 群馬テレビに生出演

- 12月 4日 群馬県生涯学習ボランティアの集い
 にて発表
 〈規模の大きな企画〉
- (1) JR 高崎駅からの依頼で、高崎駅の工事現場の
 空きスペースを利用し、「高崎壁画」を作成した。
 高崎市学生を対象とした絵の作品展示として、夏
 季休業中を利用して絵の企画から運営までを行っ
 た。
- (2) 群馬県産業教育フェアにおける、小中高校生の
 健全育成の為の著名人による講演会の実施。
 K-1 ファイターでありトレーナーでもある、
 宮本正明氏の講演会を独自企画運営した。講師と
 して、杉並区立和田中学校校長藤原氏や貴乃花関、
 斉藤孝教授、俵萌子様など各界の著名人に打診を
 行った。
- (3) NPO 法人高崎やる気堂と高崎女性経営者研究
 会と連携して、人情市での「ビンゴゲーム」を実
 施した。協賛企業に品物を募り、その対価として
 企業を宣伝するという事で、40以上の企業と
 連携を果たし毎回200以上の商品を扱っている。
- (4) NPO 法人高崎やる気堂との共同企画で、高崎
 の商店街で使える地域通貨「高崎小判」の作成を
 計画中であり、両替所を「Colors」に設置し、市
 内賛同企業を募り企画実施する予定である。

5. 広報活動について

当初、各種セミナー参加者を募る新聞折り込み広
 告を実施したが効果があがらなかった。この経験か
 ら高崎市内の小学校6校を対象者を絞り、各校の全
 校生徒向けにチラシを作成し広報を実施した。この
 結果、広告対象を的確に判断し、広告するという
 マーケティングの重要性を実地学習することができた。

また、ホームページや新聞やテレビでの放映効果
 からか、内閣府国民生活局市民活動促進課、九州大
 学都市計画学研究室、群馬大学社会情報学部佐渡研
 究室、NPO 法人 ETIC、情通出版「ぼらんた〜る」
 編集部、高崎市市民部市民生活課など県内外から問
 い合わせがあり、経済産業省中心市街地活性化室、千
 葉市産業振興財団、市立広島商業高等学校、群馬県
 商業教育研究会流通ビジネス研究会などの視察を
 受けたことにより、活動の認知度が上がっていると
 実感している。

さらに、群馬県産業教育振興会総会や群馬県商業
 教育研究会流通ビジネス研究会、高崎市 NPO ポ

ランティア交流会、群馬県生涯学習ボランティアの集いなどでプレゼンテーションを実施し、情報交換と交流に努めてきた。

6. 他団体との連携について

高崎市役所商業観光課からは資金援助、高崎市南公民館からセミナー会場の通年使用許諾を得ることができ、また、隣接する南小学校からは、セミナー開催日の駐車場使用という賛同を得た。さらに、NPO 法人高崎やる気堂や高崎女性経営者研究会、貝沢町自治会、本町自治会との連携関係やNHK、群馬テレビ、上毛新聞社、FM ぐんま、ラジオ高崎などとの広報についての連携を果たしている。さらに、日本経済新聞社、毎日新聞社からは活動についての問い合わせを継続的に受けている。一方、NTTME 群馬をはじめとする、40社以上にもものぼる高崎市内提携企業群と協力してセミナー等を実施している。これらの団体は、活動開始から約5か月間に、活動の趣旨を理解してもらったの上の協賛である。

7. 自立を目指した経済活動について

現在、店舗運営の資金の大半は、補助金などによりまかなわれている。しかし、活動2年目を迎えるに当たり、また、存続性という面からも自立するため以下の経済活動を考えている。

- (1) オリジナルキャラクターである「Hug だるま」の商標権を、高崎市物産振興協会主導により取得し、地元商店に商品企画提案を行いそのパテント料収入を得る。
- (2) 地域通貨「高崎小判」をNPO 法人高崎やる気堂と共同企画運営し、両替手数料を得る。
- (3) 地元企業のホームページの作成代行することにより活動資金を募る。

8. 科目との関連について（私案）

1年次での「ビジネス基礎」において、ビジネスの重要性を理解させるため、ビジネスとは何か、またその意義について、興味関心が持てる指導内容や方法を工夫する。また、コミュニケーション能力を身に付けるために、説得力あるプレゼンテーション技法やビジネスマナーを習得させる。年間を通じて、大学や産業界などの外部講師を活用し、「起業」の意味や種類について興味・関心・意欲を啓蒙する。

さらに、「情報処理」において、IT 技術習得を目指し、ビジネスでのコンピュータ活用方法の可能性を提示し、実習方法を学ばせる。また、ワープロや表計算やプレゼンテーションソフトの応用活用技術を身に付けさせる。

2年次では、学校設定科目「商品プロデュース」を実施し、デザイン、ネーミング、ロゴ、イメージキャラクタ、キャッチコピー、テーマソング、ストーリー、マーケティング、各種分析、市場動向調査などを通して、実用可能な商品開発に必要な知識を会得する。その内容としては、商品デザイン、商品企画全般、販売企画全般、各種調査分析、プレゼンテーション技法、知的財産権取得申請などを学習する。

また、学校設定科目「情報コミュニケーション」も開設し、企画提案時に必要となるコミュニケーション能力と、ネットワークを駆使した情報発信能力の育成を目指す。さらに、企画・販売・経営分析に必要な能力を高度なコンピュータ活用により実践する。また、商品開発とビジネス解析技法に必要な、コンピュータ技能全般についての応用活用能力も身に付ける。その内容としては、ホームページ作成と活用、各種調査分析、コミュニケーション活用、プレゼンテーション活用、経営分析・管理などを学習する。

3年次では、「課題研究」「総合実践」を活用し、市場動向を把握する調査研究のため、消費者のニーズを的確に把握できるように、調査研究の手法を体験的に学ばせる。また、空き店舗での販売実績や市場調査を、コンピュータを活用し分析する。これらと同時に経営分析やマネージメントなど、経営者としての視点から物考えるため、販売実績データや市場調査の分析結果を次の実践に生かすための様々な角度からの分析・判断を行う。

他方、知的財産権の申請書類作成や法人格取得書類を模擬作成することや、他のNPO 法人と連携することで、実務の力を付けさせる。また、コミュニティ施設としての空き店舗活用や、販売実習の場としての空き店舗活用を実体験させることで、想像力と実効力を付けさせる。

9. おわりに

物質的な豊かさや価値観の多様化の中で自ら学び考えることをせず、生徒たちが自立した個人として

の夢や目標を持たぬまま、学ぶ意欲を喪失している現実がある。

また、一方的な知識や技術の詰め込みは、ともすると学習に対する意欲や関心を失わせると共に、思考力や判断力をも低下させる場合もある。そのために、何のために学ぶのかという目的意識と必要感を持たせる工夫が必要である。この仕掛けが、経済社会の変化に柔軟に対応でき、生涯学び続けることができる基礎的な資質を育て得るものと考えた。

そこで、商品の開発やビジネスモデルなどの企画提案、知的財産権の取得、更にその一連の流れを、自主的に運営する自立型NPO組織で実体験させることで、アンケート調査や市場調査による統計分析能力、対人関係を形成するコミュニケーション能力、プレゼンテーション技法、情報発信に必要なネットワーク活用能力等を身に付け、ビジネスのスペシャリストを目指し、柔軟で前向きな発想力と意欲的な実践力（真の生きる力）を身に付けたSomething Creativeな人材の育成を図ることを目的にこの活動を進めている。

一連の活動を通して、「起業家精神」と「経営者としての視点」、「実務経験から得た判断力」と「リーダーシップ」を兼ね備えた人材育成を目指している。そして、この取り組みを展開することによ

り、これまで関連の薄かった実社会との垣根が消え、人と人との輪がさらなる輪を呼び起こし、これまで考えられなかった全国的な規模での人的ネットワークが構築されつつある。

また、中学生が職業観や勤労観を持ってないまま、単に普通科志向となることへの歯止めになり、最終的に、職業意識や起業への意識を向上させることができ、かつ、真の意味での開かれた学校づくりに貢献できる。

さらに、商業高校生が実務に触れ、職業人との信頼という名の「絆」を結ぶことにより自らの存在価値に気づき、それに触発されて諸々の活動に対する意欲を向上させ、さらに目的意識を明確にすることで、より生き生きと「生きる」ことを期待している。

NPO 法人 高商 Planning

〒 370-0831 群馬県高崎市新町 43 番地

TEL 027-326-9080

<http://npocolors.org>

mail@npocolors.org

